

平成28年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



海老名市立大谷小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成28年4月19日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 目的や意図に応じて、表現をよりよくするために考えることができます。
- 目的に応じて図や表を関係づけて読むことができます。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことができます。

《努力を要する所》

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことに課題が見られません。
- 平仮名をローマ字で書いたり、ローマ字を正しく読んだりすることに課題が見られます。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 目的に応じて複数の本や文章を比べ、自分の考えを明確にしながらか読むことができます。
- 目的に応じて、質問したいことを整理することができます。

《努力を要する所》

- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして、考えをまとめることに課題が見られます。
- 目的や意図に応じ、グラフや表を基に、自分の考えを書くことに課題が見られます。

これまでの取組から

- 読解力を育成する授業
 - ・文章を理解したり表現したりするときに、文の構成について意識できるよう指導してきました。その中で、目的に応じて本や文章を比べて読むことや自分の考えを明確にする大切さが増してきました。

今後の具体的な取組について

- 日常の中で書くことに意欲がもてる場の設定
 - ・新出漢字を丁寧に書いて覚えたり、既習の漢字を意図的に復習することができるよう今後も継続して指導していきます。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 除法の性質をよく理解し、正確に計算ができます。
- 「単位量あたりの大きさ」の求め方を理解しています。
- 全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味について理解しています。
- 三角形の底辺と高さの関係について理解しています。

《努力を要する所》

- 割合が百分率で表された場面で、基準値、比較量、割合の関係を捉え、式に表すことに課題が見られます。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 1つの考え方に基づいて、条件を変更した場合においても同じように考察できることを理解し、その考察を数学的に表現することができます。
- 日常生活の問題の解決のために、乗法や除法の式、図形の性質を用いて判断しています。
- 日常生活の問題の解決に向けて、必要な情報を収集し、目的に応じて表やグラフを用いて表したり、適切な判断をしたりすることができます。

《努力を要する所》

- 算数の問題場面で見いだしたことを、図形の構成要素に着目して、論理的に考察することに課題が見られます。

これまでの取組から

- 本校で研究している、「友だちと協力し合って問題解決を行う」ことや「これまでの学習を生かして新たな問題に取り組む」ことの積み重ねにより、算数科の学習の基本的な知識・技能・考え方が身につけてきていると考えられます。
- 算数科の授業において、「導入の工夫」を大事にしてきました。導入を工夫したことで問題場面を想像しながら学習することができ、日常生活の問題解決に算数科の考え方を生かせるようになってきたと考えられます。

今後の具体的な取組について

- 問題の数量の関係を正しく捉えたり、図などに表したりしながら、的確に場面を読み取り、立式できるように指導を工夫します。
- 図形の構成要素に着目して図形を論理的に考察し、考察の結果を説明し合う学習を充実していきます。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

○家庭学習の習慣

- ・100%の児童が「家で、学校の宿題をしている」と答えています。
- ・90%の児童が「授業以外で1時間以上勉強をしている」と答えています。

○学習への関心・意欲

- ・75%の児童が「授業中わからないことがあったら友達、先生に尋ねる」と答えています。
- ・80%以上の児童が「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えています。（全問題で無回答児童0%）

《課題と思われる所》

- ・「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦する」という児童が、少ない傾向があります。
- ・「友達の前で自分の考えや意見を発表する」ことに、苦手意識のある児童の割合が若干多いです。

生活について

《よかった所》

○規範意識

- ・95%の児童が「学校のきまり、友達との約束を守っている」と答えています。
- ・95%の児童が「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と答えています。

・100%に近い人数の児童が「人の役に立つ人間になりたい」と答えています。

○学校生活の充実

- ・95%の児童が「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかった経験がある」

《課題と思われる所》

- ・「地域の行事やボランティア活動に参加している」児童が、少ない傾向にあります。

これまでの取組から

○学習や生活において多くの望ましい態度や行動がみられることは、本校児童の大きな特長です。各ご家庭の養育が、大きく影響しているものと考えられます。学校においても、児童一人ひとりを理解し、励ましと賞賛を与えながら、よい体験を積み上げていけるように指導・支援に努めていきます。

○本校では、協同学習を軸とした算数科授業づくりの研究に4年間取り組んできました。その結果、友だちと学び合い、互いに高め合おうという意識が児童の中に根づいてきていると考えられます。

今後の具体的な取組について

○今後も、児童の聴く力・話す力を伸ばし、思考を伝え合う楽しさを体感させる活動を通して、積極的に学習活動に取り組む姿勢を育成していきます。

○児童と地域との関わりについては、これまで以上に学校・家庭・地域の連携を深めていくことが大切です。総合的な学習の時間・生活科等で、今後も多くの方々のご支援をいただきながら学習を進めていきます。また、様々な活動の中で地域の方々に支えられていることを知り、感謝の気持ちがもてる児童を育成していきます。

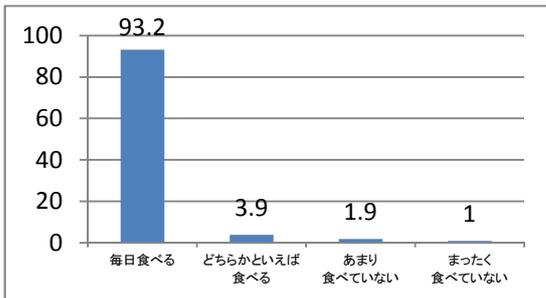
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できていることは引き続きよろしくお願ひします。また、まだできていないことは、できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 しっかりした生活習慣を身につけましょう。

「早寝、早起き、朝ごはん」を心がけ、しっかりした生活リズムをつくりましょう。

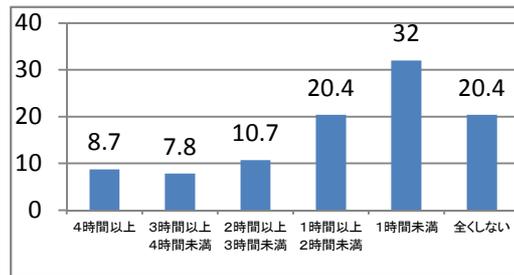
朝食を毎日食べていますか。



2 長時間のテレビやテレビゲームはやめましょう。

テレビを見たり、テレビゲームをしたりするときには、時間とルールを決めましょう。

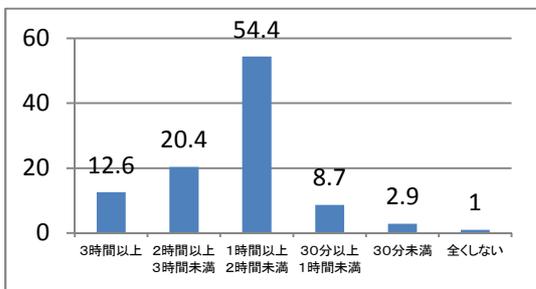
普段一日どれぐらいの時間ゲームをしますか。



3 家庭学習に取り組みましょう。

毎日、一定の時間【めやす:10分×学年】宿題や自主的な学習をする習慣をつけましょう。

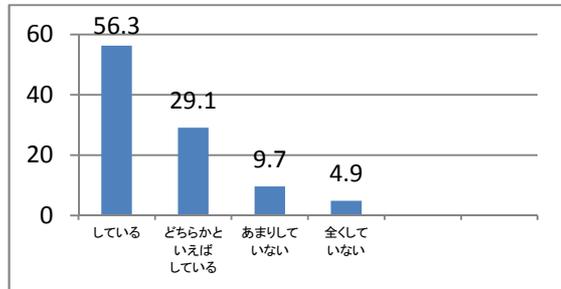
普段一日どれぐらいの時間勉強しますか。



4 コミュニケーションを大切にしましょう。

お子さんとの会話を大切にし、家族の絆を育みましょう。

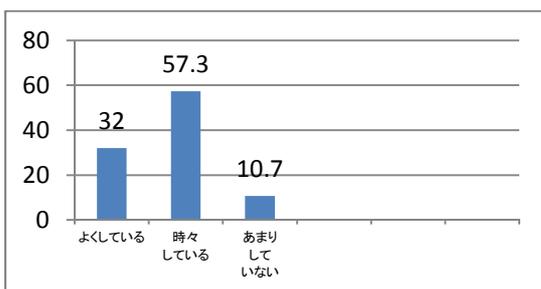
家の人(兄弟姉妹は除く)と学校での出来事について話をしますか。



5 家族の役割を考えましょう。

家族の一員としての自覚を持つよい機会です。お手伝いを続けましょう。

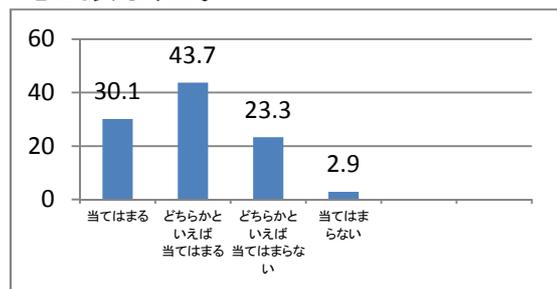
家の手伝いをしていますか。



6 地域や社会の出来事に関心をもちましょう。

地域の行事に行くことを勧めたり、家族で足を運ぶなど、積極的に参加しましょう。

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。





平成28年11月